

大工工事マン

～木とともに生きる男～

本名：木村工（きむらたくみ）

**出身：長野県木曽町（古くから木材と木工の
街^せ）**

町として知られ、名人級の職人を多く輩出した地域。）

生い立ち：祖父は宮大工、父は木の家専門の大工という職人一家に生まれる。

3歳で金槌を握り、5歳で祖父に教わった木の削り出しを初体験。

町の伝統行事「木靈（こだま）祭」の木造神輿づくりに子ども代表として参加し、地域の大人達から“木の神に愛された子”と言われる。中学時代、自宅裏の小屋を独力で改修して「工房」に仕上げ、町中から修理依頼が来るようになる。

高校卒業後、全国を巡る「大工修行の旅」に出る。

京都：宮大工の師匠から木組みの極意を学ぶ

長野：古民家再生の現場で伝統工法の応用を習得

北海道：極寒地の家づくりで断熱と構造の知識を習得

ある年、木鶯町を台風が直撃し、多くの家屋が倒壊。

帰郷した工は、昼夜を問わず復興作業の先頭に立ち、町のほぼすべての家を修復。

その姿が地元新聞に取り上げられ、町の子ども達から自然と

「大工工事マン！」と呼ばれるようになった。

現在では“壊れた家は見捨てない”を信条に、全国各地の現場へ駆けつける。

木の魅力を伝える講演会や、子ども向け木工教室も主催。

目標は「木のぬくもりが感じられる仕事を日本中に広げること」。

